

# 若者から「農家になりたい！」を生み出す 農業ワーケーションの提案

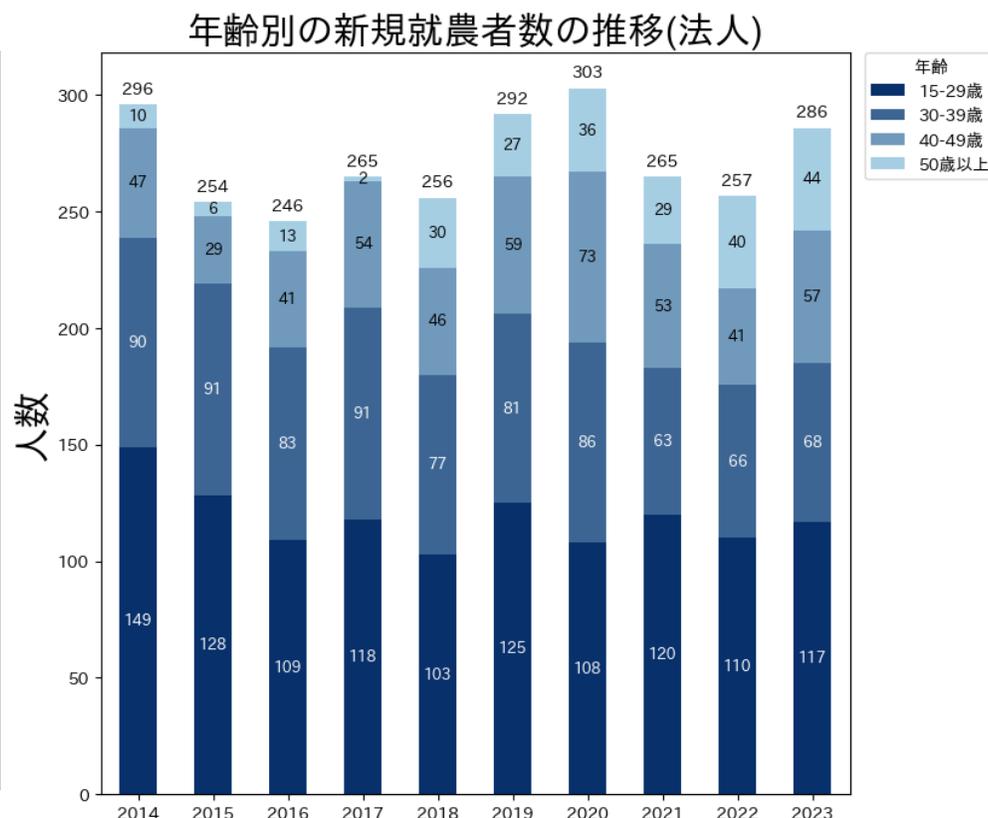
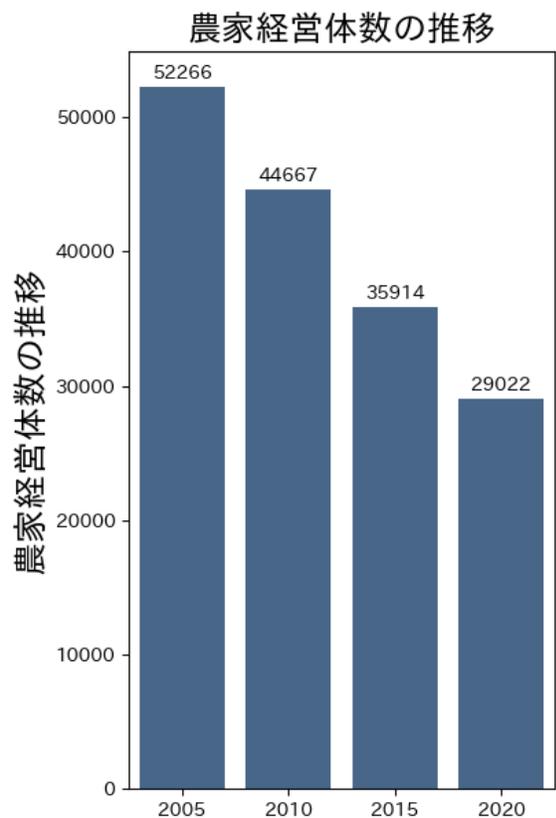
255605 大村優介

青森県では高齢化と農家の減少が課題となっている。  
県外の若者に農業に興味を持ってもらうことがこの問題の  
解決するための一歩目だと考える。  
本ワークショップでは若者に農業に興味を持ってもらうための  
農業ワーケーションを提案することを目的とする。



# 青森県の農家の数と参入者数の推移

分析者：大村 優介



- 農家の数に注目すると減少傾向にあり、15年間で55%まで減少している。
- 新規就農者に注目すると過去10年間で横ばいを維持している。

**新規就農者数を増やす必要がある。**

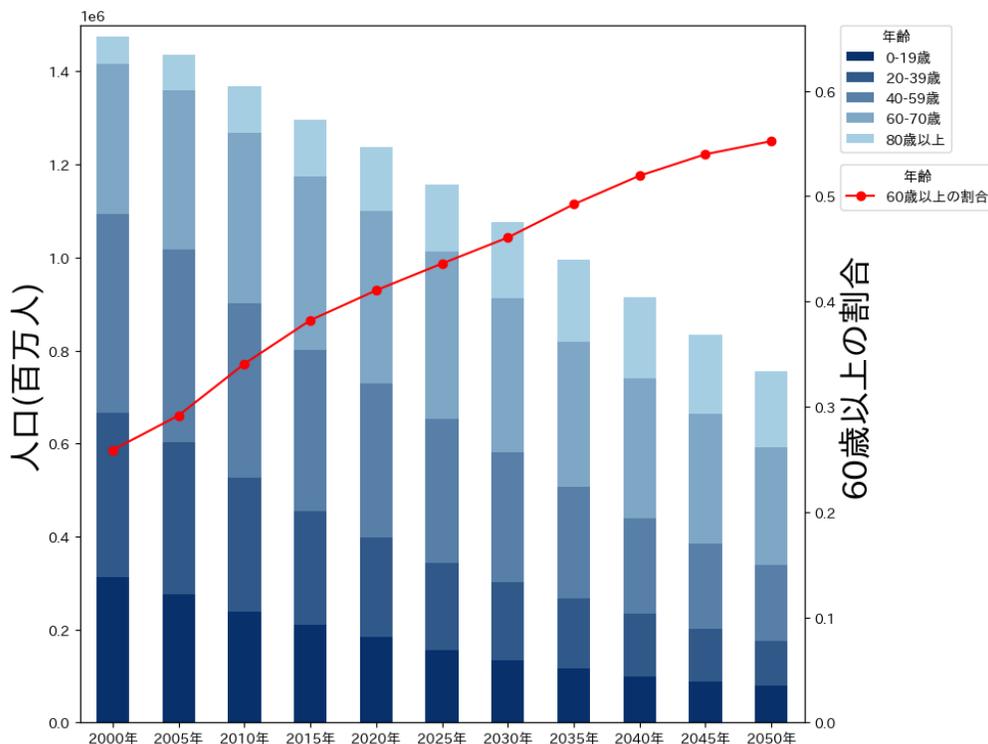
(左) e-Stat - [農林業センサス\(2020\)](#) から作成

(左) 青森県庁 - [2020年農林業センサス結果の概要\(2020\)](#) から作成

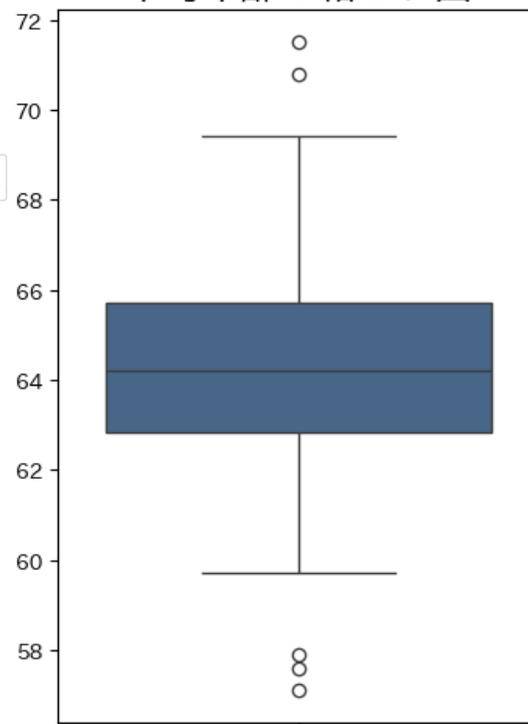
(右) 青森県庁 - [青森新時代「農林水産力」強化パッケージ\(2025\)](#) から作成

(右) 青森県庁 - [令和5年度青森県の新規就農状況調査結果について\(2024\)](#) から作成

青森県の人口と60歳以上の割合の推移



市区町村別の農家の平均年齢の箱ヒゲ図



- 県全体で高齢化が進んでいる。2050年には60歳以上の割合が**50%を超える**と予測されている。
- 農家の市区町村別の平均年齢に注目すると平均値が64.2歳である。青森県の一般労働者の平均よりも**14.9歳高い**。

高齢化から引退する農家が増えると予想される。  
県内でも高齢化が進んでいるため  
県外からの若い新規就農者を増やす必要がある。

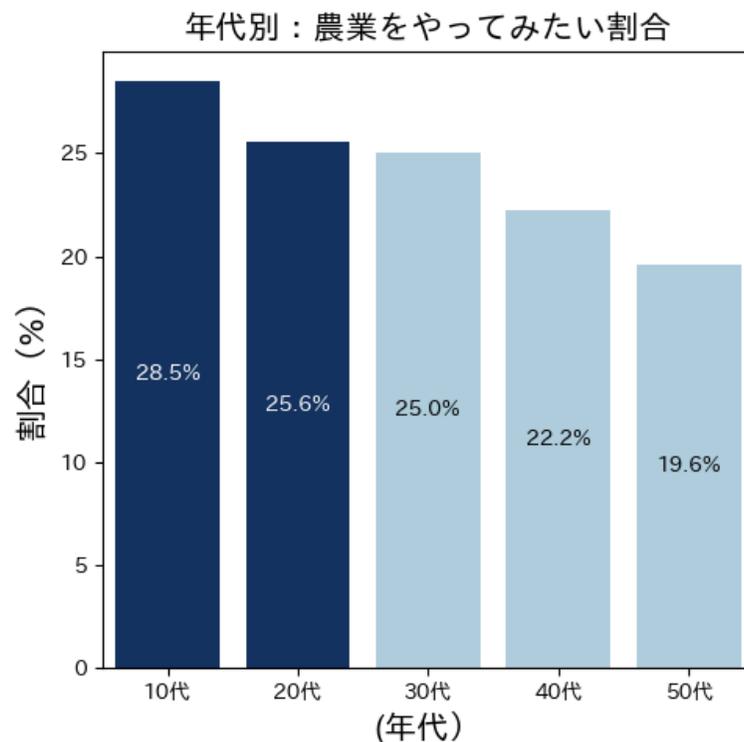
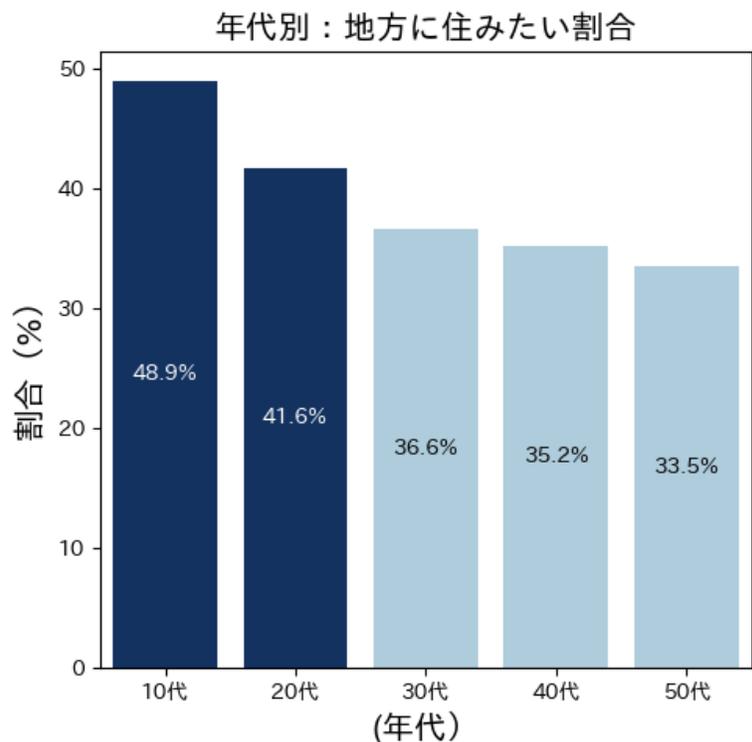
(左) 国立社会保障・人口問題研究所 - [日本の地域別将来推計人口\(2023\)](#) から作成

(左) e-Stat - [国勢調査\(2020\)](#) から作成

(右) e-Stat - [農林業センサス\(2020\)](#) から作成

## 地方での居住と農業に対するイメージ（全国）

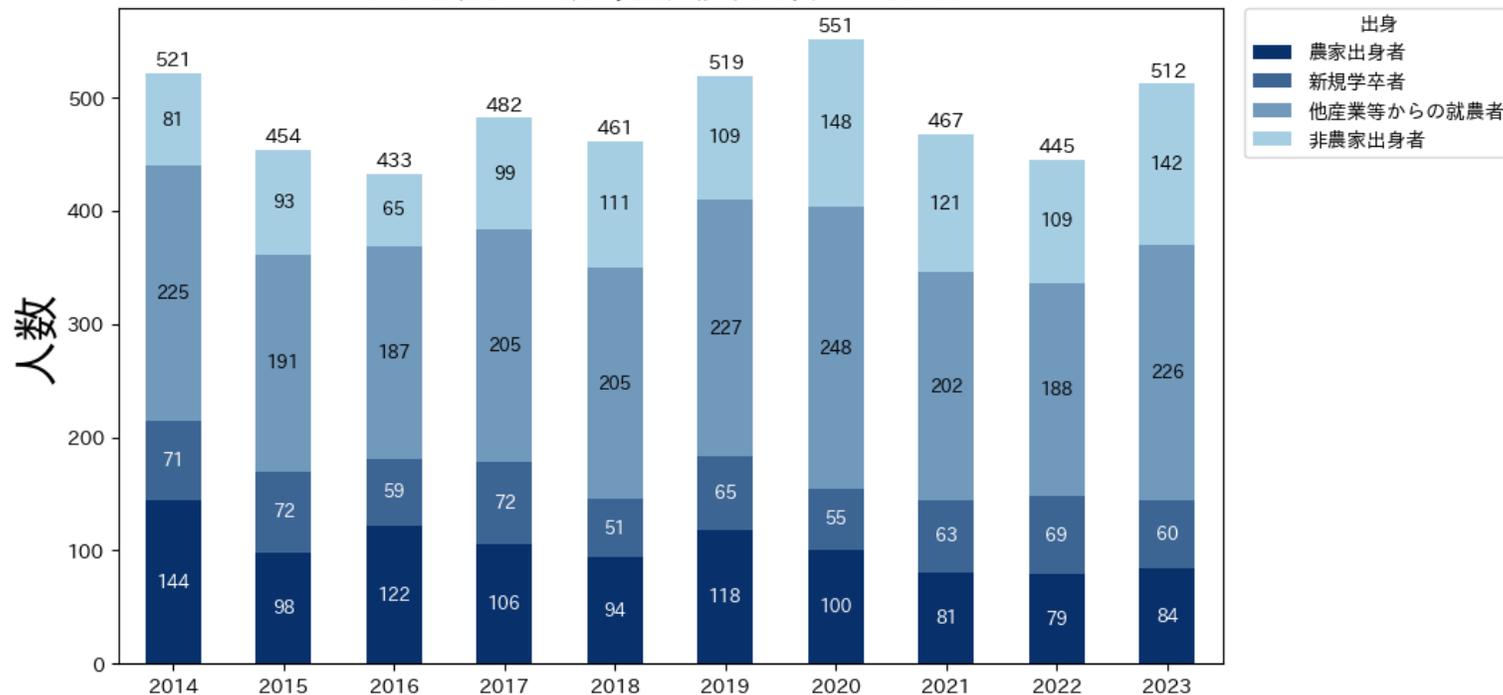
分析者：大村 優介



- 年齢が低いと地方に住みたい、もしくは住み続けたいと答えた割合が高い。20代以下に注目すると40%以上が前向き。
- 年齢が低いと農業をやってみたいと答えた割合が高い。20代以下に注目すると25%以上が前向き。

(左、右)JA - [農業に関する意識と実態調査\(2024\)](#) から作成

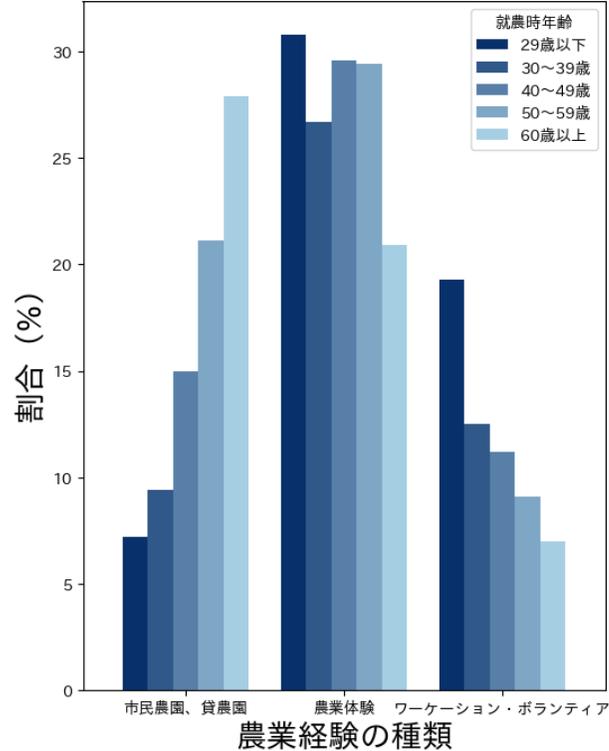
出身別の新規就農者数の推移



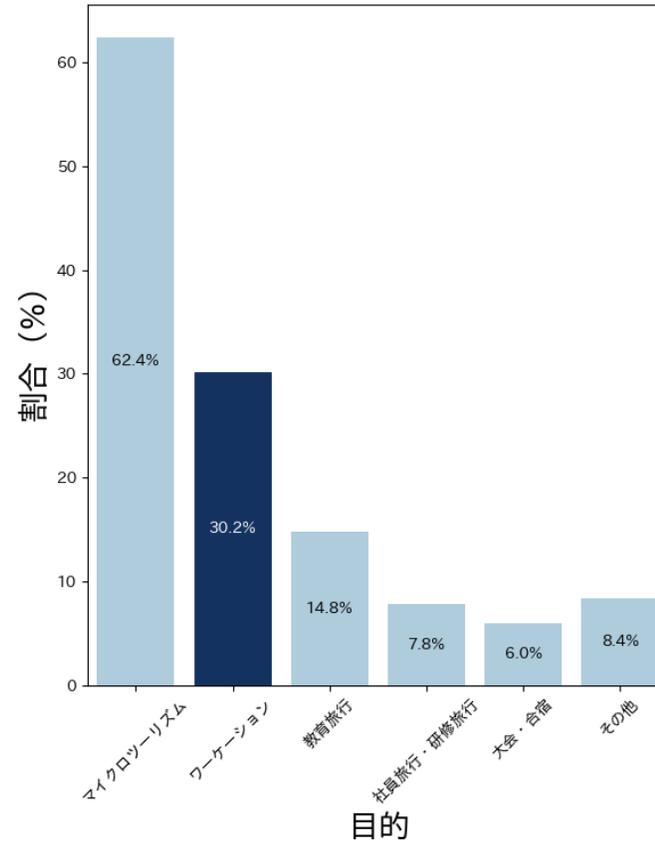
- 参入者の多くが他産業か非農家出身。このことから農業を経験していたり深く学んでいなくても就農できることが分かる。

未経験者の若者へ農業の魅力を伝えるプログラムを作ったら新規就農者数を増やせるのでは？

就農時年齢別の農業経験（主要カテゴリのみ、全国）



地方への旅行目的

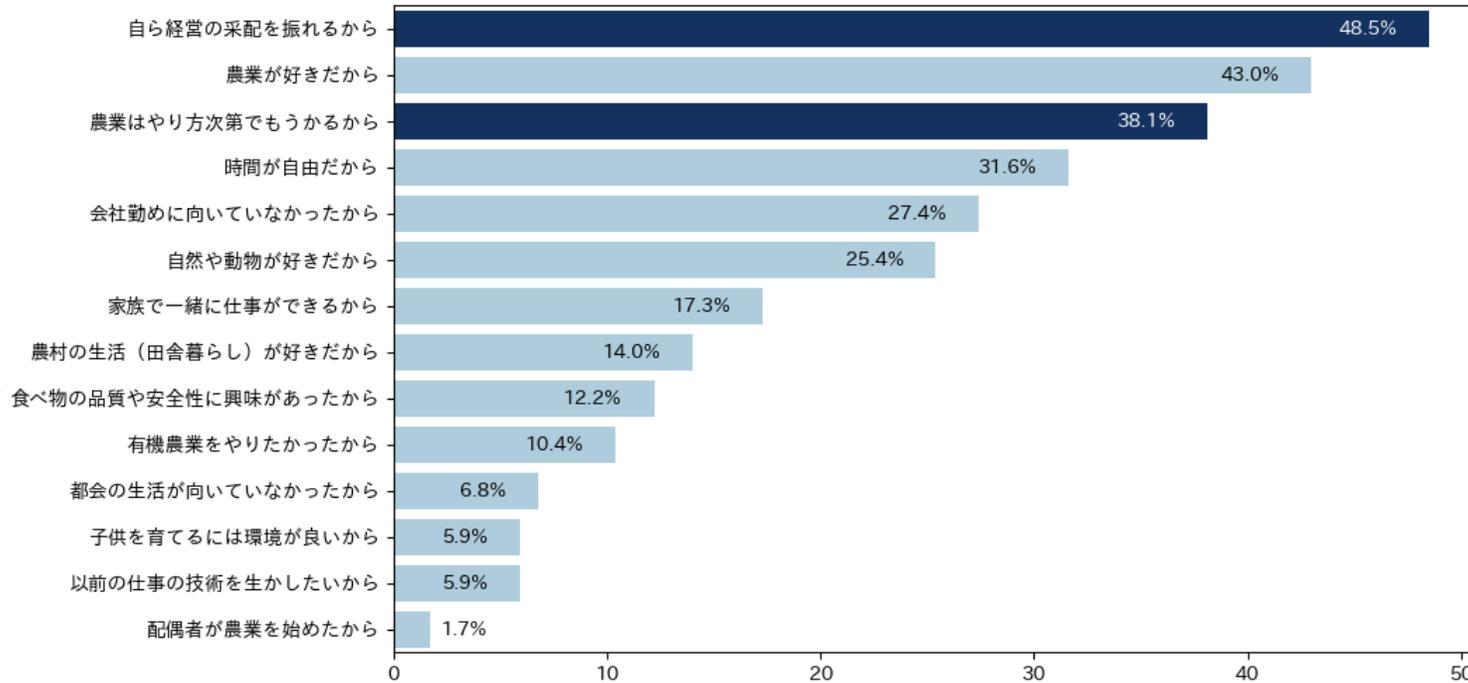


- 若い層は体験型の農業経験が多い。ワーケーションに注目すると20代以下の比率が高い。
- 地方への旅行目的としてワーケーションが2番目に多い。

**若者に農業の魅力伝えるため手段として農業体験型のワーケーションが優れている？**

(左)一般社団法人全国農業会議所全国新規就農相談センター - [新規就農者の就農実態に関する調査結果\(2021\)](#) から作成  
 (右)農林水産省 - [農泊におけるワーケーションについて](#) から作成

29歳以下の新規就農者の収納理由



- 20代以下の新規就農者に注目する。就農理由の1番目と3番目が経営者目線の理由である。

ただ農業を体験してもらっただけでなく、  
経営的視点からの農業も体験できる  
プログラムにすると就農を促進できる？

# 区分別農業経営組織別経営体数、農家経営体数の推移、

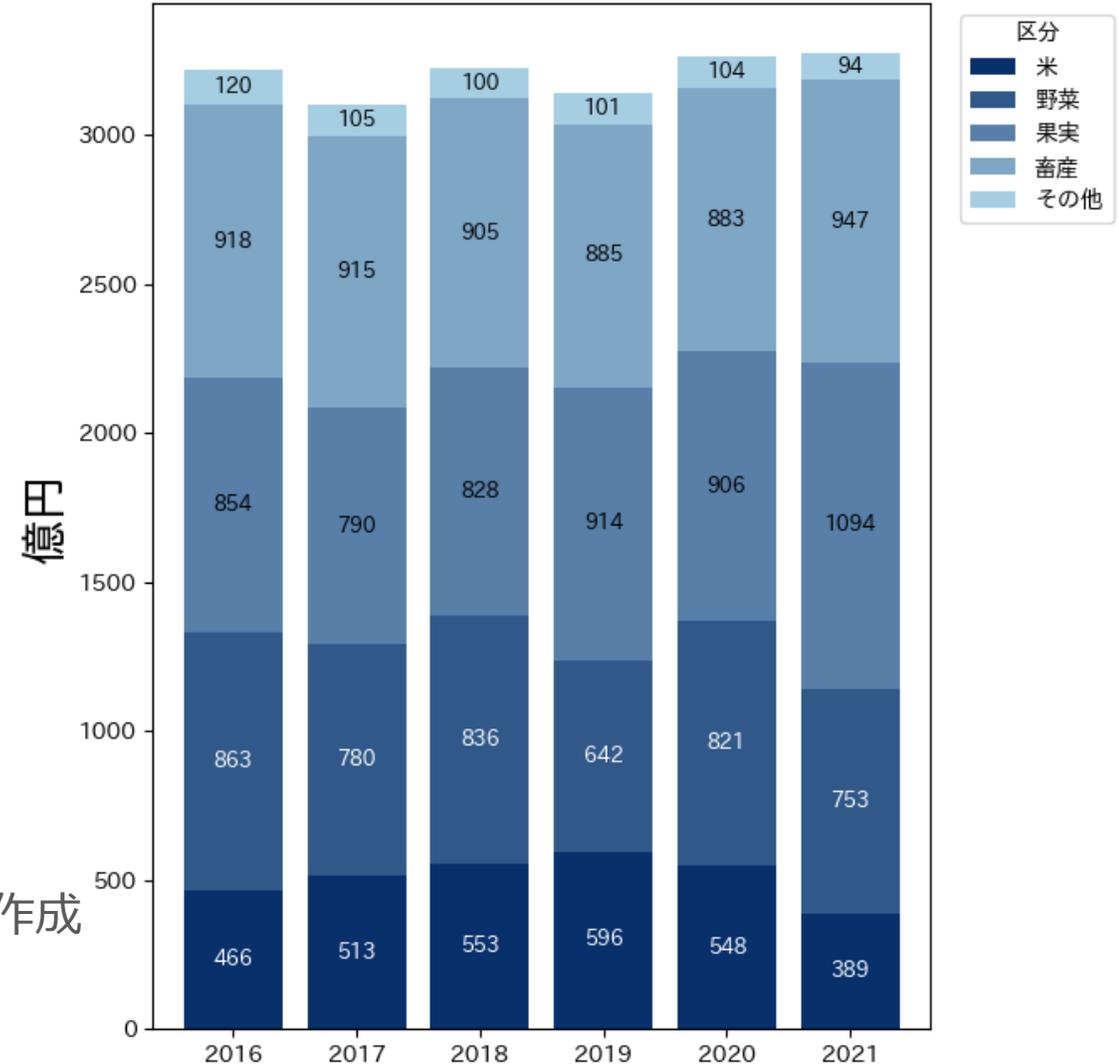
分析者：大村 優介

## 区分別農業経営組織別経営体数

	稲作	麦類作	雑穀・芋類
<b>2020年</b>	8,418	12	304
<b>2015年</b>	10,912	17	287
<b>差分</b>	<b>-2,494</b>	<b>-5</b>	<b>17</b>
	露地野菜	施設野菜	果樹類
<b>2020年</b>	2,579	335	9,196
<b>2015年</b>	2,970	288	10,251
<b>差分</b>	<b>-391</b>	<b>47</b>	<b>-1,055</b>

(左)青森県企画政策部 - [2020年農林業センサス結果の概要](#) から作成  
 (右)農林水産省 - [生産農業所得統計\(2022\)](#) から作成

## 区分別青森県の農業産出額



## 過去の農業ワークショップの例

### 青森県弘前市×JALの例（短期・課題解決型）

#### 1日目：弘前市とリンゴ産業の理解

虹のマーケット訪問：

弘前市民の台所と呼ばれる市場で昼食を購入。

オリエンテーション：

弘前市農林部りんご課の担当者からリンゴ産業の現状や課題について説明を受ける。

#### 3日目：地域課題の共有

ブレインストーミングセッション：

これまでの体験をもとに、弘前市の魅力や課題、可能性について参加者全員で議論。

#### 2日目：リンゴ収穫体験と地域交流

農業体験：

120年続くリンゴ農家で、収穫作業などを体験。

地元住民との交流会：

地元の人々との交流会に参加し、農業の苦労や魅力について意見交換。

#### テーマ：地域活性化のアイデア提案

市職員との意見交換会：

滞在中に感じた弘前市のポテンシャルについてディスカッションを行い、地域活性化の具体的なアイデアを提案。